

横浜市小学校社会科研究会

3学年部会

研修会記録

第 6 号

令和5年 12月 6日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 権正 倫範

【提案日時】

11月 1日 (水)

提案 三浦 智 先生 (高舟台小)

【会 場】

平沼小学校

司会 田川 晋啓 先生 (山元 小)

記録 小森 竜也 先生 (汐見台小)

1 提案内容 単元名

単元名「地域の安全を守る ～高舟台のまちを火事からまもるには～」

2 提案者より

○学校・児童の実態について

- ・ より自分たちが住む町へ焦点化していきたいが、児童の実態としてイメージしにくい児童への支援が課題と考える。普段は配慮を要するが心動く瞬間に活動できる児童がいるので、その子を中心に進められたらと考える。

○本単元について

- ・ 単元計画として「もう一度まちを見つめなおす」時間を設定したい。「こういう危険性があるのではないか？」をクイズ形式にしたり実際に見学したりすることで、学校は高台の上にある、ホースの格納箱がどこにある等を意識できるようにしていきたい。
- ・ 6・7時間目での活動から8～10時間目のまちの捉え直しにつなげ、さらに消防団(+αで自治会)に焦点化していきたい。
- ・ 「防災の両輪」として、消防署と消防団の協力体制を意識しているが、訓練と実際の活動のズレが本気の学習問題になるのではないかと考える。

3 協議会

○4年生と異なる3年生の消防学習

- ・ はじめての社会科ということもあるので、資料の量を少なくしたり、子ども達が理解しやすい言葉で説明したりするなどの進め方が必要。

○消防署と消防団、訓練と本番と異なる点など表に用いて比べる。

- ・ 「防災の両輪」を扱いながら、具体的なエピソードを取り上げていけるのではないか。
- ・ 消防署と消防団の協力についてもエピソードがあるとわかりやすい。

○その他

- ・ 比較の資料をシンプルにまとめていけるといい。
- ・ 協力の意味を子どもたちが追求できるとよい。
- ・ 消防団をどのような存在として子どもたちに見てほしいのか。
いてくれてありがたい？ 協力してくれる存在？ 絶対必要？
→ 消防団は必要、でなく防災のために地域の方も協力していることに気づけるとよい。